

令和元年度 前期学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校

第1回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和元年9月6日（金）午後7時00分～午後8時00分

2 会 場 大明小学校校長室

3 参加者 学校関係者評価委員
石田敏枝（委員長）
杉山由貴子
市川和男
石川 恵
岡本知子
山形賢治（欠席）
篠原未佳
学校職員
飯久保一男（校長）
内藤 賢 （教頭）
米山 隆男（教務主任）

4 学校から提案された内容

- （1）学校経営について（校長）
- （2）学校の自己評価について説明
 - ①保護者アンケート（教頭）
 - ②教職員による自己評価（教務主任）
 - ③児童アンケート（教務主任）

5 特に協議された内容の概要

（1）保護者アンケート結果

- ① 携帯電話の設問を除くすべての設問で、A B評価（肯定的評価）が85%以上の結果となっていること、また、昨年度後期の結果と比べ、13項目でA評価回答が増えているから、家庭と本校の共通理解、連携は順調になされているといえる。しかし、C評価の割合が昨年度同様に一定数あることに着目し、現状を振り返り改善の努力を続けていく必要がある。
- ② 設問1「学校は教育目標や具体的行動目標を保護者に伝えている。」、設問6「学校からの文書や連絡等は適切である。」、設問8「学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。」に関して、今年度は前年度までも行ってきた教育活動について、より発信力を高めたことが、A評価が増えた要因の一つととらえる。児童たちや教職員の日頃の努力を外部に伝え、理解してもらえることが好循環につながる。大明小学校は素晴らしい学校だと皆が自信をもてる学校にしていきたい。
- ③ 設問5「学校は、児童についての悩みや心配事に適切に対応してくれる。」について、学級担任が誠実な対応を心がけている。また、今年度はスクールカウンセラーを活用してい

る。しかしながら、C評価があることを重視し、組織で多角的に対応することで相談者の困り感に寄り添った対応と丁寧な説明を行う。

- ④ 設問14「児童に携帯電話を持たせている場合、児童とルールづくりをしていますか。」に対してのA回答率が下がっている。

保護者のスマホへの知識向上や防犯・ルールへの参加意識が求められている。学校では、5、6年生を対象にスマホ利用の防犯教室を行ったり、注意喚起の文書を配付したりして、指導を継続してきている。防犯教室は保護者の参加が例年少ないので、来年度は、より専門的な講師（業者等）に依頼し、保護者にも積極的な参加を呼びかける。

- ⑤ 設問15「児童は、地域の行事へ積極的に参加している。」では、C評価が減少したがA評価も減少している。

児童も習い事等で忙しい中、地域の行事にできるだけ参加している状況が想像できる。地域のつながりは、児童の教育にとって重要な力をもっている。学校もできるだけ地域に貢献できるように、朝のラジオ体操に地区担当や管理職ができるだけ参加するようにした。

- ⑥ 設問16「児童は、家庭や地域の中で、あいさつをしている。」では、C評価が比較的多く、A評価が昨年度を下回っている。

学校でも、朝の児童玄関では元気なあいさつができて、その他の場面ではあまりできていない現状がある。自分から進んであいさつすること、おはよう以外のあいさつもすることを指導していく。児童は場の使い分けをしがちなため、教職員、保護者、地域が一体となって指導していく必要がある。

（2）教職員による自己評価

- ① 設問6-①「児童は、あいさつができていたか。」の問いに対して、あいさつは、朝の玄関前ではよくできているが、日常のあいさつがまだまだであるという答えが多い。いつでもあいさつを自分から行える子が増えることが望ましい。いつでもどこでも自分から進んで気持ちのよいあいさつができるように全校体制で指導を工夫していく。

（3）児童アンケート結果

- ① 設問6「進んであいさつができましたか。」の問いに対して、「よくできた」「できた」が84.8%と若干増えている。「よくできた」「できた」の割合が高いのは1・2・5・6年生（90%を超えている）であるが、児童の自己評価は、できているほど自分に厳しく回答する傾向にあるので、数字では判断できないところもある。児童会のあいさつ運動、またクラスのあいさつの取組により、「あいさつ」への意識が昨年度よりも高まってきていると思われるが、「自分から進んで」「大きな声で」あいさつができる児童はまだ少ない。地域でもできていない現状がある。あいさつは、「おはようございます」だけでなく、「ありがとうございます」「いただきます」「ごちそうさま」等も含まれることを自覚させたい。学校全体で家庭と連携しながらさらなる取り組みを行っていく必要があると考える。
- ② 設問7「携帯電話を持っていますか。」の問いに対して、自分専用、兄弟姉妹で共用、合わせて「持っている」児童が、52.1%で、昨年度に比べるとかなり増えた。（10.3%増）1年生から自分の携帯を持っている児童が35%いる。4年生以上になると所持している児童が持っていない児童を上回るようになる。児童が自分で購入することはできないので、持たせる必要があるのか、正しい使い方を指導しているのか等、保護者の指導力を必要とするところが多い。
- ③ 設問8「家の人と（携帯電話を使う時の）ルールを決めていますか。」に対して、ルールを決めている家庭は47.9%で、昨年度に比べかなり減少している。1年生はルールを決めている率が高い。2年生の「ルールを決めている」と答えている児童が31%とかなり低い状況である。決めているルールとしては、多い順に「時間を守る」16人、「必要な時だけ使用する」11人、「使い方に気をつける」7人「使用制限がある」5人、「友達と一緒にの時だけ使える」2人であった。

1学期末に、携帯電話を使用する上での注意喚起の文書を配付した。（毎学期末配付する

計画)携帯電話を児童に持たせるとどんな危険に巻き込まれるのか、防犯教室等で学習して理解してもらい、児童が事件やトラブル等に巻き込まれないように指導を継続していくことが大切である。(毎年1学期に5・6年生が防犯教室で学習)それには、親子での「ルールづくり」が大切である。携帯電話については日進月歩で進化していくので、これからも学校や学級からも懇談や学年部会、おたよりなどで継続的に家庭に働きかけをしていく必要があると思われる。

6 協議の場に出された意見等

(1) 児童のあいさつについて

- ・毎年、あいさつが課題に出るが、交差点などで大勢の大人がいるとできていないように思うが、道路で、一人で交通当番をしていると、みんな顔を見てあいさつをしてくれる。アンケートの結果ほどあいさつが悪いという印象はない。
- ・高学年の児童が優しく、下級生の面倒を見ていて素晴らしい。遠くから登校してくる児童は、学校近くまで来ると疲れてあいさつが弱くなってしまうのかもしれない。毎朝、校長先生が道路に行き、児童を指導していて感心している。
- ・登校中、甲西中学校の生徒が、小学生に気をつかって学校まで送ってくれ、素晴らしいと感じる。

(2) 児童のスマホ等の使用について

- ・メールもそうだが、オンライン・ゲームをしている児童が多い。
- ・オンライン・ゲームは、相手がいるゲームなので、自分で勝手にやめることがなかなか難しい。
- ・スマホの使い方が心配なので、ゲームやメールをする時、充電の時などは、親のいる場所させた方がよいと思う。

(3) 児童の登校について

- ・登校中、楽しそうに話をしながら登校する班とまったく話をせず黙々と歩く班があるが、どちらの方がよいか。
- ・登校班は仲良しの児童ばかりでつくられている班ではない。家が近くの異年齢の集団であるので、話す班もあるし、話さない班もある。
- ・江原地区では、登校中、川に落ちた児童や転んでしまった児童がいたが、高学年児童が助けていて感心した。
- ・1年生の荷物が多い。ランドセルの中は、整理されてきっちり中身が入れられていて、担任の先生の指導に感心する。
- ・登下校する時に荷物が重いと大変なので、職員の共通理解として学校に置いておけるものは置く、という確認をとっている。週末は、ふだんの日より荷物が多くなってしまう。

(4) 地域行事への参加について

- ・児童が少ない地区は、ラジオ体操が存続するか心配である。
- ・学校の地区編成では、複数の地区を一緒にして人数の偏りを防いでいる。
- ・夏のラジオ体操では、最初の運動からラジオ体操第1・第2まで全て体操し、小学生から中学生、保護者、おじいちゃんおばあちゃんまで参加していて地域の力を感じた。
- ・夏休み前の事前の講習会で、しっかり講習を受けてやっているのが、役立っているかもしれない。

(5) 学級の児童数について

- ・現状では来年度の新3年生と新6年生が単級になってしまうのが心配である。なんとか対応したい。
- ・話題になっている25人学級実現の前に、現在の1・2年生の35人学級制度が6年生までになると学年2学級になるが、現行ではこのままいくしかない。
- ・3年生という時期は、発達的に活動的になる時期なので、少人数学級になるとよい。

貴重な御意見、ありがとうございました。